

The286th Programming Deliberation Committee

第286回番組審議会 議事録

開催日 2025年3月18日（火）

出席者：山田吉彦委員長、角田陽一郎委員、長崎亘宏委員、安藤美冬委員、望月理恵委員

議題（審議番組）：

『interfm Phase Free Campaign Special Program Ready for Life～防災の新常識～』

放送日時：2025年3月11日（金）13:30～15:55

DJ：ジョージ・カックル / 渡辺麻耶

会社からの説明

日常的に在留外国人に生活情報を、災害時には緊急情報を多言語で放送している interfm は、日常と非日常のフェーズをフリーにするという防災の新しい考え方“フェーズフリー”に共感し、“フェーズフリー”を知ってもらうキャンペーンを3月に展開しました。

アイデアや商品をレギュラー番組でご紹介。そして本番組は、東日本大震災からちょうど14年となる3月11日に、“フェーズフリー”についての理解をより深めるために生放送した特別番組で、<いつも>は18年続く日曜の生ワイド番組「Lazy Sunday」のDJ、ジョージ・カックルと渡辺麻耶が、<もしも>の時にも役立つ暮らし方やアイデアを、各分野の専門家をお迎えしてお届けしました。

委員からの意見・感想

審議委員A

非常に良い取り組みだと思った反面、番組には最後まで入り込めなかった。ゲストはよかったが、2時間半の番組であれば、もう少しゲストのバリエーションがあってもよいと思った。フェーズフリーの認知度はまだ低く、これをメディアとして広めるのであれば、特番という形ではなく複数のレギュラー番組で取り上げるなど、賛同したDJたちが集まって何かお祭りのことをやるような展開も考えられると思った。

審議委員B

DJの2人に大人の余裕を感じた。防災というテーマだが、毎週レギュラー番組を担当している2人だからこそ信用性があり、ずっと耳に入ってきた。2時間半、ノンストレスで聴くことが出来、女性ゲストの話がまとまっていて、とてもよかった。

審議委員 C

ゲストのフェーズフリー協会・佐藤代表理事の喋り方が上から目線で偉そうに聞こえた。フェーズフリーなボールペンを紹介する時に、「普段も使えるボールペンを作れば売れるじゃないですか」って言っていた。ユーザー目線を持っていれば「こういう商品があったら欲しくなるじゃないですか」という表現になるはずで、生産者側の目線が出てしまっているな、と感じた。前半はネガティブな印象だったが、後半の 2 人目、3 人目のゲストの話はとても参考になり、面白く学べるいい番組だという印象が変わった。

審議委員 D

とても前向きなアイデアにあふれていた。常備食の話やキャンプの話など二人のゲストが、楽しみながら取り組まれているところが素敵で、フェーズフリーという考え方が説教臭くなく伝わってきた。自分にあったやり方で防災対策するというあり方が本当に素敵な番組だなと思った。

審議委員 E

日本の危機管理が改めて問われている。3 月 11 日に防災に関する自主特番を行うことで、リスナーに問題意識を持ってもらうことは意味のあることだと思った。気になったのはファクトの検証。「湧き水が一ヶ月腐らない」というのは、雑菌がまったく入らなかったなどの条件があった場合であり、表現に気を付けたほうがよいと感じた。

一会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上